

和顔愛語「和やかな顔と思いやりの言葉」で人に接すること



10月17日に、令和6年度に先生になった先生たちが勝間田小学校に来て、1年生と6年生の授業を見てくれました。その感想を紹介しますね。

<1年生への感想>



写真は今回の授業の写真ではありません

先生やクラスの仲間の発言に対して、前向きに受け取ろうという姿勢を強く感じました。先生やクラスの仲間が、心から好きな様子を見ることができました。

話し合いの際に、うまく自分の考えがまともでなくても、何とかみんなに伝えたいという「きらり」な瞬間をたくさん見ることができました。

聴き方と反応がとてもすばらしいと思いました。聴くときには相手の方を向く。反応をしてあげる。また、自分の意見を持ち、比べながら聴いている子もいて、1年生ってすごいなと感じました。

発表していない子に、「〇〇さんは、どう思うの?」とみんなで考えようとするところまで来たと思いました。

話の聴き方や発表の仕方、反応などが、とてもしっかりしていて、参観していて「気持ちよかった」です。特に、聴き方では、一人一人が身体を向けて、真剣な目をしていたので一生懸命に授業をしていることが、伝わってきました。

明るさ、元気さ、一生懸命に発表をして、授業に参画しようとする姿が、とても印象に残りました。

また、友だちの発表にも大きな声で反応を返し、仲間のことを大切にしようとする姿も多く見られました。

1時間を通して、素直に取り組もうとする姿勢が1年生のよさだと感じました。

「聴く」ことができていて感心しました。聴く姿勢や反応などから安心して発言できる雰囲気があると思いました。

みんなが聴いてくれるから、発表したい。自分の意見を伝えたいという思いが子どもたちの様子からわかりました。

温かさのある学級でした。

当番さんのはきはきとした号令、友だちのきらりを認め合う雰囲気があり、1年生にして授業に向かう姿勢が育まれていると思いました。

「聴いてもらえる」という安心感が学級にあふれていると思いました



写真は今回の授業の写真ではありません

<6年生への感想>

全員が、授業に粘り強く取り組んでいる様子が見られました。また、自分で調べる場面、話す場面の切り替えがスムーズにできているとともに、話す場面では、自分たちで話を進めていて感心しました。

先生に指名されてからではなく、自分から話すことは、社会に出た時に必要な力なので、6年生の時点で、それができていることが素晴らしいと思いました。

さらに、どんな場面でも素直さがよい方向に出ていて、応援したくなる気持ちになりました。

自分たちの力で、目標やめあてに迫ろうとする姿が印象的でした。特に、仲間の意見とつなげながら発言しようとする姿、既習事項を活かした発言の工夫、時間を見て次の活動へと促す調整力など一人一人ができることに全力で取り組んでいるように見えました。

クラスの仲間を思いやり、大切にしようとする魅力があると思いました。



写真は今回の授業の写真ではありません

「自分たちの力で授業をつくろう。クラスをつくろう」という気持ちを子どもたち一人一人から感じました。

ただ、自分のわかることを増やすだけでなく、他の子に共有したり、他の子の考えをふまえて改めて自分の考えを再構成する様子が見られました。

他の子とも上手に関りながら、学習や生活を「自分ごと」にして、本気になって取り組む姿勢に輝きを見つけていることができました。



写真は今回の授業の写真ではありません

自分たちで、授業を創り上げることができていて、「これが主体的な学びなんだ」と感じさせられました。話し方・聴き方は当たり前前にできていて、とても温かい雰囲気ですばらしいと思いました。

「秀吉と似ている」と既習とからめたり、「〇石って何?」と疑問を素直に発表できたりする姿から、自分たちで授業を深めようとしていることが伝わってきました。

純粋に学ぶことを楽しんでいるということを授業のはじめから終わりまで絶えることなく感じる事ができたので、とても立派な6年生だと思いました。

聴き方や反応が1年生と比べてもレベルアップしていることを感じました。キーワードに注目してねと言われてただけで、教科書に線を引いている子や色付きで表す子など、それぞれの工夫が見られて、すばしかったです。

また、調べるだけではなく、以前の学習と関連付けたり、自分の考えを組み込んで考えられている子が多く、さすが6年生だと思いました。